

2023年11月30日

実行委員
エキストラ
審査員
参加者
様

救助救命本部長

第8回JLAシミュレーション審査会近畿・中国・四国ブロック 【和歌山県和歌山市片男波海水浴場会場】実施細部 通知

1. 実行委員会・エキストラ・審査員構成を次ページ以降に表記
2. タイムテーブルを次ページ以降に表記
3. 審査票
別紙1から別紙5の通りとします。
4. 配点割合
別紙6の通りとします。
5. 想定
別紙7、別紙8の通りとします。
6. その他
変更があった場合は、審査会当日の開会式で伝達します。

問合せ先

公益財団法人日本ライフセービング協会

〒105-0022 東京都港区海岸 2-1-16 鈴与浜松町ビル7階 担当 中山

T E L : 03-6381-7597 Mail : nakayama@jla.gr.jp

(問合せ時間 12:00-18:00)

審査員・エキストラ構成

- 2023年12月2日(土) 和歌山県 和歌山市 片男波海水浴場 会場
長 和歌山市消防局 警防課 救急救助班 田村 隆幸 (たむら たかゆき) 様
員 第五管区海上保安本部 警備救難部救難課 救難業務係長 米田 剛士 (よねだ たけし) 様
長 大阪ライフセービングクラブ 高橋 大樹
員 大阪ライフセービングクラブ 大橋 一輝
員 ライフセービング教育本部 推薦 西岡 あゆみ
員 ライフセービングスポーツ本部 アスリート委員会 出木谷 啓太
長 JLAアカデミー本部 サーフライフセービング委員会 吹田 光弘
員 JLAスーパーバイザー 豊田 勝義
M JLAメディカルダイレクター/大阪 SLC 鍛冶 有登
員 JLA顧問 青木 伸一
審 日本ライフセービング協会 理事長 入谷 拓哉
計 救助救命本部副本部長 菊地 太

- 審査票担当 (各審査員の氏名前に記載されている記号は以下の通りとします。)

長 監視長審査担当
員 監視員審査担当
M 救護手技審査担当
審 審査長全体審査担当
計 時間審査担当

※ 審査票は、別紙の通りとします。

- エキストラ

土居 均 大阪ライフセービングクラブ
梅本 理貴 大阪ライフセービングクラブ
小笠 原宏之 大阪ライフセービングクラブ
谷口 博信 大阪ライフセービングクラブ

- 実行委員会委員

菊地 太 パトロールレスキュー委員会委員長
小林 俊樹 パトロールレスキュー委員会副委員長
佐藤 文机子 パトロールレスキュー委員
縄手 大志 パトロールレスキュー委員
藤井 正弘 パトロールレスキュー委員
末次 尚之 パトロールレスキュー委員
中山 昭 JLA事務局 救助救命本部担当
佐藤 洋二郎 JLA事務局 アカデミー本部長

2023年12月2日(土) 和歌山県 和歌山市 片男波海水浴場 会場 タイムテーブル

時間	項目
08:00	係員集合 会場設営開始
09:00	会場設営完了 エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09:30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09:35	実施チーム受付開始
09:50	全実施チーム参加者本部テント前集合 開会式に伴い集合
09:55	<p>主催者挨拶 日本ライフセービング協会 理事長 入谷拓哉</p> <p>紹介 審査員 第五管区海上保安本部 警備救難部救難課 救難業務係長 米田 剛士 (よねだ たけし) 様</p> <p>紹介 講評 和歌山市消防局 警防課 救急救助班長 有松 和彦 (ありまつ かずひこ) 様</p> <p>紹介 審査員 和歌山市消防局 警防課 救急救助班 田村 隆幸 (たむら たかゆき) 様</p> <p>紹介 随行 和歌山海上保安部 警備救難課 海上防災係長 唐妻 哲也 (からつま てつや) 様</p> <p>■救急隊員エキストラ 和歌山市消防局 中消防署 南分署 第2班救急小隊 救急隊長: 消防司令補 西 真史 (にし まさふみ) 様 救急隊員: 消防士長 中西 雄一 (なかにし ゆういち) 様 救急隊員: 消防副士長 松谷 俊希 (まつたに としき) 様</p> <p>紹介 審査員 大阪ライフセービングクラブ 高橋 大樹 紹介 審査員 大阪ライフセービングクラブ 大橋 一輝 紹介 審査員 ライフセービング教育本部 推薦 西岡 あゆみ 紹介 審査員 ライフセービングスポーツ本部 アスリート委員会 出木谷 啓太 紹介 審査員 J L A アカデミー本部 サーフライフセービング委員会 吹田 光弘 紹介 審査員 J L A メディカルダイレクター/大阪 SLC 鍛冶 有登 紹介 審査員 J L A スーパーバイザー 豊田 勝義 紹介 審査員 J L A 顧問 青木 伸一</p> <p>事務連絡及び補足説明</p>
10:30	第1回目実施 大阪ライフセービングクラブ 磯ノ浦海水浴場
10:50	第2回目実施 大阪ライフセービングクラブ 片男波海水浴場
11:10	第3回目実施 大阪ライフセービングクラブ 白良浜海水浴場
11:30	<p>■集合写真 ■各公的救助機関、J L A メディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評 表彰</p> <p>審査会総括 実行委員長 (救助救命副本部長) 菊地 太</p>
12:30	<p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力</p> <p>本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 事務連絡 全係員解散 日没時間 16時50分</p>

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

服装など

1. 実施チーム

夏期監視業務中の服装とします。必要に応じて監視業務中の防寒対策可とします。ただし J L A から配付や販売の **パトロールユニフォーム** については原則 **2020 年製以降** を使用し、記録写真が今後の広報活動に使用できるよう配慮願います。

監視長実施者識別のため、運営側が用意したビブスを一番外側に着用予定です。

2. 実施隊（救急隊員）

災害対応時の服装とします。

3. エキストラ

役どころに応じて別途指示します。各自防寒対策願います。

4. 審査員

随意としますが、審査員の腕章を着用とします。各自防寒対策願います。

5. 記録（静止画担当・動画担当）

随意とします。各自防寒対策願います。

注意事項

1. **実施チームは、実施時間 20 分前には、係員から指定された次番者テントに集合し、審査開始まで離れないでください。**
2. 想定終了後は、実施チームは速やかに使用資器材を元の位置に戻し、次番チームの進行の妨げにならないよう配慮してください。
3. 前番の実施チームの審査はモラルの範囲で見ないものとします。
4. 審査実施終了後チーム及び見学者は審査実施を見学し、見取りトレーニングとしての参加を推奨しますが、審査未実施チームへの想定内容など情報漏えいは禁止とします。
5. 審査中に危険が伴うと審査員によって判断された場合は、想定終了前であっても中止と指示する可能性があります。審査中であっても審査員の指示があった場合は、速やかに従ってください。
6. 審査結果に伴い、優秀な実施チームを閉会式で発表します。また、審査員から上がった検討・推奨事項は、2024 年 2 月 3 日迄に公式 HP など公表します。来年のパトロール活動や審査会及び普段の連携トレーニングに活かしてください。
7. **想定及び J L A 側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。**



当日テントなどの配置が変更されることがあります

監 視 長 審 査 票

番号	項目	小項目	点数				小計	
1	継続監視対応	状況に合わせた継続的な監視体制を確保できていたか	1	2	3	4		
2		救護活動に対しての指示は的確であったか	1	2	3	4		
3		全体の監視員配置を把握していたか	1	2	3	4		
4	有事対応	公的救助機関対応	傷病者の観察情報を把握していたか	1	2	3	4	
5			関係者及び周囲の状況情報を把握していたか	1	2	3	4	
6			観衆への協力を含め、活動依頼などがされていたか	1	2	3	4	
7			公的救助機関が到着する前から、引き継ぐことを考え指示し行動させていたか	1	2	3	4	
8			搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	
9			公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	
10			監視長から監視員への指示は良好であったか	1	2	3	4	
11			指示に対して監視員からの応答を確認していたか	1	2	3	4	
12			継続監視を含め、全体を把握していたか	1	2	3	4	
13	状況に合わせた対応	関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4		
14		危険行為がなかったか	1	2	3	4		
15		資器材を丁寧に取り扱いわせていたか	1	2	3	4		
16	監視長としての指揮項目は十分であったか		1	2	3	4		
17	必要に応じて声の抑揚を使い分け、効果的な指示ができていたか		1	2	3	4		
18	CPR に関する留意点(AED ショック時に要救助者の体に触れていない。AED ショック時に周囲に適切なアナウンスがされている等)が適切であったか。		1	2	3	4		
19	感染防止対策は十分であったか	最大13点					点	
20	総括点	最大15点					点	
		合計得点 100点満点中					点	

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名 _____

実施チーム名 _____

監 視 員 審 査 票

番号	項目	小項目	点数	小計
1	継続監視対応	他の監視員との連携は的確であったか	1 2 3 4 5	
2		救護活動に対する行動は的確であったか	1 2 3 4 5	
3	有事対応 公的救助機関対応	監視長の指示のもと、組織的な活動ができていたか	1 2 3 4 5	
4		FA 含め傷病者の観察方法は的確であったか	1 2 3 4 5	
5		公的救助機関への協力体制は十分であったか 搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1 2 3 4 5	
6		公的救助機関への申し送りは十分であったか	1 2 3 4 5	
7		他の監視員との連携は的確であったか 知り得た情報を監視員間で共有できていたか	1 2 3 4 5	
8	状況に合わせた対応	周囲の自然環境などを考慮して活動できたか	1 2 3 4 5	
9		関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1 2 3 4 5	
10		資器材の取り扱いは習熟していたか	1 2 3 4 5	
11		観衆に配慮した行動ができていたか	1 2 3 4 5	
12	CPR に関する留意点(AED ショック時に要救助者の体に触れていない。AED ショック時に周囲に適切なアナウンスがされている等)が適切であったか。		1 2 3 4 5	
13	感染防止対策は十分であったか	最大20点		点
14	総括点	最大20点		点
		合計得点 100点満点中		点

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名 _____

実施チーム名 _____

救護手技審査票 CPR 評価基準

審査員氏名 実施チーム名

	Excellent/Good	Fair	Poor	適正な条件	評価基準
CPR初動&搬送				10秒以内に行う	Excellent:迅速だった、Fair:時間がかった、もしくは短いが許容範囲内、Poor:CPR開始までに10秒以上の時間がかった、もしくは短すぎる、観察していない
心停止判断の観察方法				頸動脈の拍動、もしくは呼吸の有無を確認する	Excellent:適切だった、Fair:許容範囲内、Poor:不適切、確認できていない
蘇生場所への搬送				安全かつ迅速に移動ができる	Excellent:適切だった、Fair:許容範囲内、Poor:不適切、移動しなかった
応援の要請				迅速に応援要請をした	Excellent:適切だった、Fair:許容範囲内、Poor:不適切、移動しなかった
					※1初動と搬送についての総合印象
胸骨圧迫				胸骨の下半分	各評価項目について胸骨圧迫の全体時間のなかで
深さ				5~6cm	Excellent: 90%以上できている
テンポ				100~120回/分程度: fair	Good: 70%以上できている
リコイル				圧迫解除時に胸骨が元の位置に戻る	Fair: 50%以上できている
絶え間ない胸骨圧迫				一連の経過の中で中断がない	Poor: 50%もできていない
					※2について
呼吸吹込み法 (playerが行った場合)				口腔内観察し、吐しゃ物等あれば除去する	Excellent:20点、Good: 15点、Fair:5点、Poor:1点
使用器具				フィルター付マスクを用いる	フィルター付きマスク:Excellent、フェイスシールド:Fair、感熱対策なし、もしくはBVM:poor
胸骨圧迫、人工呼吸				30対2	30対2:excellent、許容範囲:good、それ以外:poor
胸郭のあがり				胸がしっかり拳上げる	人工呼吸が全体の90%以上出来てい:excellent、70%以上できている:good、50%以上できている:Fair、50%もできていない:Poor
					※3安全で有効な人工呼吸が行われた場合のみの採点
AED				パッドの位置	Excellent:10点、Good: 8点、Fair:1点、Poor:0点
				パッド装着中の胸骨圧迫の中断	適切な位置:Excellent、どちらか一方が不適切な位置だが心臓をはさんでいる:Fair、両方も不適切で新戴王をはさんでいない:Poor
				傷病者から離れたか	中断せずに実施:Excellent、Poor:中断
				ショック後の胸骨圧迫再開	離れている:Excellent、だれかが接触している:Poor
					迅速に再開した:Excellent、再開に数秒以上かかった:Poor
					適切だった:Excellent/パッドの位置のみ不適切だった:Fair、ショック時に誰かが接触していた:Poor
					※4 AEDの操作の総合印象
					Excellent:10点、Fair:5点、Poor:20点
全体的な評価※4					Excellentもしくは50-40点、Goodもしくは39-30点、Fairもしくは29-20点、Poorもしくは19点以下
					※5 CPR総合評価(※1~※4をふまえて)

審査長全体審査票

番号	項目	小項目	点数				小計	
1	継続監視対応	状況に合わせた継続的な監視体制を確保できていたか	1	2	3	4		
2		救護活動に対しての指示は的確であったか	1	2	3	4		
3		全体の監視員配置を把握していたか	1	2	3	4		
4	有事対応	公的救助機関対応	監視長の指示のもと組織的な活動ができていたか	1	2	3	4	
5			FA 含め傷病者の観察方法は的確であったか	1	2	3	4	
6			関係者及び周囲の状況情報を把握していたか	1	2	3	4	
7			観衆への協力を含め、活動依頼などがされていたか	1	2	3	4	
8			公的救助機関が到着する前から、引き継ぐことを考え指示し行動させていたか	1	2	3	4	
9			搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	
10			公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	
11			監視長は、継続監視を含め、全体を把握していたか	1	2	3	4	
12	状況に合わせた対応	関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4		
13		危険行為がなかったか	1	2	3	4		
14		資器材を丁寧に取り扱いさせていたか	1	2	3	4		
15		資器材の取扱いは習熟していたか	1	2	3	4		
16	監視長としての指揮項目は十分であったか		1	2	3	4		
17	必要に応じて声の抑揚を使い分け、効果的な指示ができていたか		1	2	3	4		
18	CPR に関する留意点(AED ショック時に要救助者の体に触れていない。AED ショック時に周囲に適切なアナウンスがされている等)が適切であったか。		1	2	3	4		
19	感染防止対策は十分であったか	最大13点					点	
20	総括点	最大15点					点	
		合計得点	100点満点中				点	

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

時間審査票 想定

番号	項目	時間	分類	点数
1	FA 含め傷病者への観察開始時間は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
2	必要であれば傷病者への気道確保は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
3	必要であれば傷病者へのAED解析開始は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
4	119番通報は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
5	傷病者の救急車内収容は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	

優=10点 良=8点 可=6点 他=5点以下 実施チームの平均タイムから分類・点数は算出します。

実施チーム名 _____

審査票総合評価配点割合

監視長審査票	30%
監視員審査票	50%
審査長全体審査票	10%
時間管理による審査	10%
救護手技審査票	別途評価

1. 各地域によって、審査票の担当者数に相違があるので、最終集計時の総合評価配点割合は上記を反映させます。
2. 審査票の内容・配点内訳・配点割合は変更ある可能性があります。

時間	項目
0分	ライフセーバー（以下 L S）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 0秒後スタート	監視本部前の波打ち際から、傷病者 A（年齢実年齢、学生、川島博(かわしまひろし)若しくは弘子(ひろこ)）が、遊泳中に右下腿(右ふくらはぎ)に急激な痛みを感じ、監視本部まで歩いてきた(自力歩行)。時間経過とともに右下腿の痛みが増してきたと訴える。 また、上記の受傷した際に驚き右に転倒した。岩場に右前腕をつき、同位置に 5cm 程度の裂創、出血している。 【想定のおねらい】右下腿には触手が残っていないことから、どのクラゲ(刺胞動物)に刺されたのか不明。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声がけ含め傷病者 A が安心できる対応であったか。③受傷部位をよく観察し、適切な手当ができたか(お湯を使って温める。何が何でも海水をかける行為は NG)。④感染防止対策は十分であったか。⑤右前腕の裂創に対して止血を含む対応は適切であったか。
傷病者 A；監視本部前の波打ち際から自力歩行	
想定開始後 45秒後スタート	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から 40m 程度離れた波打ち際に溺れた人(傷病者 B)が引き上げられたようだと言報を受ける。通報者は、海の家(エイジア)の従業員(年齢実年齢、塚田陽介(つかだようすけ)若しくは冴子(さえこ))。傷病者は呼吸をしていないように感じたので危険と判断し、監視本部に来たが、どのような状況で溺れ、救出されたか前後の状況は全く知らない。傷病者 B(年齢実年齢、派遣社員、関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)は波打ち際の人だかりの中で側臥位。ライフセーバーの初見はレベル 300。周囲にいた傷病者の友人も泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある(観衆による活動障害)。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。3 回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。傷病者の友人のうち 1 名が、波打ち際 20m 程度の位置でうつ伏せ浮きしている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げたと、ライフセーバーからの問いかけで回答する。傷病者の状態：LS 接触時、呼吸、脈、意識なしの状態から CPA と判断、左記状態以外は見たまま、外傷無し。(傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。)訓練用 A E D を装着した場合は、解析するもショックの必要なし。実機用パットのため粘着力強。ライフセーバーの CPR 実施は訓練用ダミーを用意。バイタルの観察は生体を使用。呼吸なし、橈骨・総頸動脈触れない。大量の海水を飲んでいて想定される。 関係者の条件：LS 接触時、傷病者の横に友人がいる。慌てており、LS 接触後 30 秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、救急車呼んだのであれば荷物を取りに 300m 離れた海の家まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着 1 分後まで戻ってこなくなる。海の家に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前(関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ))、年齢(実年齢)、電話番号(携帯をいじって 090-7000-5762)、住所(品川区)だけ回答。 その他、友人からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者はいつの間にかはぐれてしまい直前の状況は分からない。気付いた時には海にうつ伏せで浮いている状態で、呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20 分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119 番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のおねらい】溺水により当初は意識レベル 300。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察、②CPA の判断、③救急要請、④CPR の実施、⑤AED の扱いが適切かつ迅速であったか。AED パットの貼り付け位置が適切であったか。⑥CPR 中断の判断、⑦CPR 若しくは EAR を継続し、必要であればライフセーバー間の交代や連携はスムーズであったか。⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか(ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策)。⑩継続監視[重要]。⑪溺水に伴う脈の観察でどの動脈を選択したか。⑫リトルアンを使用するため形だけではない人工呼吸や胸骨圧迫が適切に実施されているか。⑬意識・呼吸・脈の確認を形式的でなくしっかりと観察できているか。⑭注意事項；JLA では、「新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2023(2023 年 6 月 21 日)」に示したように、2023 年度はマウス・トゥ・マスクによる人工呼吸は傷病者と救助者の顔が至近になるため推奨していませんが、溺水の場合は低酸素血症が心停止の原因であることから、第 8 回シミュレーション審査会では、アフターコロナを見据えて感染対策(例えば HEPA フィルター付きポケットマスクの使用)をしたうえでの人工呼吸の実施は加点対象とします。なお、BVM は使用については JLA 活動ガイドラインで推奨していないことにご注意ください。
傷病者 B；監視本部前の波打ち際で意識不明	
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着(革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック)。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 12分後	車内収容完了。監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で終了。

想定及び J L A 側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。

想定8 JLA メディカルダイレクター伝達事項

本来、溺水に対するCPRは、心拍再開のために心停止の原因である低酸素血症を改善することが必要なので、人工呼吸をしなくてはなりません。

しかし、コロナ禍にあっては、救助者の安全を考え、感染対策上いたずらに従来の人工呼吸をすることは推奨しませんでした。

したがって、ハンズオンリーのCPRを唯一のCPRとして推奨しました。

一方、アフターコロナを見据えて、今後はHEPAフィルター付きマスクといった感染対策上適切な器具を用いた有効な人工呼吸が推奨されていくことになると思います。

但し医療器具であるBVMは今後もその使用は認められません。